

緊

急

質

問

3月11日の本会議で、岡田晴雄議員が緊急質問^{*}を行いました。質問と答弁を一部要約して掲載します。



世界に誇る農業を目指して「なめがた食彩マーケット」を設立

岡田 平成22年12月の定例会において、TPP（環太平洋連携協定）への参加反対の請願が提出され、議会はこれを採択し、意見書を各関係機関に送付した。また、農業関係の各種団体によるTPP参加に反対する署名も行われている。このような中、昨日の新聞に掲載されたTPP参加に関するアンケートで、市長は「どちらかといえば賛成」と回答していた。

答していた。市長はどのように考え、回答したのか。

市長 TPPへの参加には、メリット、デメリットがあり、今現在、各方面においてこの議論が行われているが、私は議会の意見書の要旨に基づき、国がその条件を守るのであれば、「どちらかといえば賛成」と述べさせていただいた。これからの私の農業に対する政策が変わることはないし、農業の発展が市の発展につながるかと考えているので、このために一生懸命頑張っていく。

今、全世界が食料について大きな関心を持っている時代の中で、日本市場だけではなく、世界全体を見ながら農業政策をやろうと考えている。今後も行方市のさらなる農業の発展のためにいろいろな政策を実行して、自立できる農業、また儲かる農業を目指し頑張っていきたいと考えている。

※ 緊急質問とは：一般質問は、定例会に限り行なわれますが、緊急質問は定例会でも臨時会でも行うことができます。しかし、緊急質問は、質問が緊急を要するとき、その他真にやむを得ないと認められ、かつ、議会がその質問を行うことに同意したときに限られます。

広報委員会

まず「手に取ってもらう」工夫を

委員会

レポート

委員会では、付託された議案等の審査のほか所管する事項の諸問題について調査を行っています。



稲敷市議会の編集のテクニックを学ぶ

● 議会だよりについて 視察先・茨城県稲敷市議会

「市民に親しまれる議会だより」を目指して、1月14日、議会だよりの読みやすさで評価の高い稲敷市議会を視察しました。

『稲敷市議会だより』は、編集方針を「見やすく、分かりやすく」とし、活字の量の適正化を図ることでスペースを有効に活用していました。また、写真を多用することで紙面に色合いを出し、重さを感じさせない工夫がされていました。

一般的に議会だよりは堅苦しく、敬遠される傾向に

あるので、まず「手に取ってもらう」ということを優先しているようです。そのため、紙面構成のリニューアルや、表紙にこだわり、動きのある写真を使うなど、「読んでもらう」につながる努力を行っていました。

議会だよりには、市民生活にかかわる重要な決定事項や、その決定に至るまでの過程が掲載されています。今回の研修で学んだ事項を活かし、今以上に興味・関心を持たれるような議会だよりづくりを努めていきます。